

手順を守ってより消毒効果を高める

～牛舎内消毒のポイント～

●手順を守って確実に

畜舎内の消毒を行う際、ただ消毒剤を散布しただけでは十分な消毒効果を得る事はできない。「①汚れ落とし ②水洗・乾燥 ③消毒・乾燥 ④石灰塗布 ⑤乾燥・牛の導入」と、手順を守って確実にを行う事が重要である。

①汚れ落とし

糞尿や敷料、器材などを舎外に搬出する。その後、飼槽の壁・牛柵・床などにこびりついている糞やほこりなどを削り落とし、ほうきなどで掃き出す。



飼槽の壁の汚れを落とす



柵のこびりつきも削り落とす

本誌109号において、「徹底した牛舎の衛生管理」について紹介した。今号では畜舎内の消毒方法の事例と、消毒効果を高めるための一般的な手順のポイントを紹介する。

②水洗・乾燥

高圧洗浄器やブラシなどを用いて、水または熱湯で畜舎内の天井・壁・床・排水溝をよく洗い、クモの巣、糞などの汚れを取り除く。上から下へ、奥から手前へ向かって水洗する。**汚れを除去する事で、消毒効果がアップするのがポイントだ。**更に水洗後はしっかりと乾燥させる事により、一層消毒効果がアップする。



しっかり汚れを取り除く



水洗は上から下へ



水洗後はしっかり乾燥させる

図.洗浄前と洗浄後の状況



③消毒・乾燥

牛舎内にまんべんなく噴霧器などを用いて消毒剤を噴霧する。消毒剤は逆性石鹼(ロンテクトなど)を使用し、牛柵や飼槽のすみずみまで消毒し、再度乾かす。



消毒は念入りに



すみずみまでしっかりと

④石灰塗布

石灰を水で溶解し、石灰乳を作成する。生石灰を使用する場合、高熱になるので、十分注意しながら作業を行う。また、生石灰の代わりにドロマイト系石灰を使用すると、水に溶かしても熱の発生はまったくないため、作業の安全性が高くなる。ここではドロマイト石灰：水を1：2で混合したものを使用している。なお、作業する際は必ずマスク、メガネを着用する。

石灰塗布機を準備し、牛床、飼槽、飼槽壁、牛柵など、牛がなめる可能性がある範囲に石灰乳を塗布する。



石灰塗布機で作業を



作業時にはマスクとメガネを

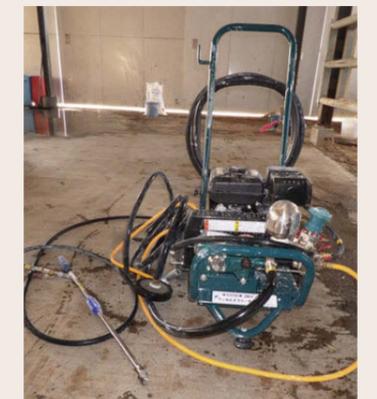


牛がなめるところは塗布

石灰塗布機の特徴



・リシガンとエアコンプレッサー
短時間で小スペースの塗布を実施する時に便利



・スプレーヤー（動噴）
長時間で広いスペースの塗布を実施する時に便利

⑤乾燥・牛の導入

塗布後は2～3日かけて石灰を乾燥させてから、牛を導入する。



塗布完了



2～3日かけて石灰を乾燥